世界平和の祈り

May Peace Prevail On Earth

編集兼発行人　高橋英雄
発行所　白光真宏会出版局
千葉県市川市中国分 5-26-27
〒272 ☎0473（73）2131～5
振替　東京 2－151348
頒価　1部10円（〒40円）
100部600円（〒100円）
1部1ケ年　600円（送料共）
10部1ケ年1,200円（〃）
100部1ケ年8,400円（〃）

敬老の日に思う

五井昌久

五井昌久先生
（大正5年～昭和55年）

今日の世界は悪い、今日の社会は悪いと、口さえ開けば、現代社会の悪さを強調している人が多いが、よく〳〵世界の歴史や日本の歴史を振り返ってみて、本当にそうなのかをじっくり確めてみるとよい。

私は、昔に比べて日本の社会が、より悪くなっているとは思わない。悪くなっていると言うより、良くなっている部面が非常に多くなっているのを、身に沁みて感じている。日本だけの例をとってみても、貧富の差が実にはげしく、日夜贅沢三昧に暮している人々の近くで、多くの餓死者が横たわっているといった状態が、足利時代でも戦国時代でも、徳川時代にはいってからでも目についていたのである。それは、封建時代の政治の悪さであったのであり、社会観人間観の無智によるものであったと思われる。将軍や大名や武士階級の自由気儘な振舞いに対して、百姓、町人は何一つ自己主張ができず、自己主張をすればただちに処罰されてしまう。だから支配階級はそういう一般国民の思わくを少しも考えず、自分達の思いのままの生活をしていたのである。

そういう社会に生活していた一般国民は、何事につけても現代の国民のように自由に振舞えず、老人になれば家族の者は別れをおしみながらも、一日も早くロべらしのために死んでもらいたい、と思わざるを得なくなったり、ひどいところになると、ある年令になると山に捨てられてしまうという話もあったくらいである。

世界平和の祈り
世界人類が平和でありますように
日本が平和であります
私達の天命が完うされますように
守護霊様ありがとうございます
守護神様ありがとうございます

頁次　〔宗教問答〕私達の天命が完うされますように、とはどういうことか？

それが今日ではどうであろう。年毎に老人対策というものが考えられて、老人が一人になっても困らぬよう、細々ながらでも生活してゆけるよう、なるべく無料か、無料にちかい金で病気をみてもらえるよう等々、なんとかして老人を助けようとして、政府の人達も考え、社会の心ある人達も考えて、次第によい方向に、老人の幸の道を開いていっている。

昔のように、その身分の階級によって社会生活が異なるというような状態がなく、どんな人とでも、対等の立場でものが言え、国民として全く一つの取り扱いを受けうるようになっている現代社会は、人々の人間観がいちじるしく、向上した一つの証左である。

だから現代の人々は、現社会のあり方に、不平、不満ばかり言っていないで、昔を顧みて、昔と比べれば随分自由な便利な世の中になったなと、感謝の気持をもつべきである。公害の問題や、国際間の問題などは、又別に考えるべきである。

敬老の日にあたって、私はそういうことを考えていたのである。

――「失望のない人生」より――

世界人類が平和でありますように

五井昌久先生の〝心〟シリーズ

素直な心　新書判　価850円　〒200円
どの分野にあっても、真に伸びる人は、素直にものを見る。素直に愛の心を出す。へんに気取らず、裸の心で生きる。人生勝利の智慧を、光り輝く心でみすえている。

明るい心　新書判　価850円　〒200円
幸福を呼ぶ秘訣は大楽天の生き方にある。底ぬけの明るさは、大空の清澄さ、広さ、高さに通じている。明るい心は軽快で、どんどん天に昇るから運命もよくなってくる。

不動の心　新書判　価850円　〒200円
想いがふらふらしていては何事も達成できない。安心立命した生活への鍵は、神愛を信ずる不動の心から発する光にある。神の愛を自己のものとする祈りここにあり！

日本の心　B6判　価900円　〒250円
古代から現代にいたる典型的な日本人――聖徳太子、芭蕉、良寛、黒住宗忠、吉田松陰、西郷隆盛、植芝盛平、裕仁天皇等の生き方に日本の心の真髄をみて、それらを見事に画ききった第一級の日本人論。

純朴の心　B6判　価900円　〒250円
平凡純朴に見えて、神智輝く生き方がある。良寛や黒住宗忠、妙好人達の大愚ともいえる純真さ、西郷隆盛の敬服驚嘆すべき不動心等。聖者方の心を語りつつ、神智と直結した生き方へと導く。

五井昌久著
神と人間　B6判　価800円　〒200円
安心立命への道しるべ
われわれ人間の背後にあって、昼となく夜となく、われわれの運命の修正に尽力している守護霊守護神の存在を明確に打ち出し、霊と魂魄、人間の生前死後、因縁因果をこえる法等を詳説した安心立命への道しるべ。

白光（びゃっこう）出版
【東京出張所】〒101 千代田区内神田 1-15-7
振替／東京 2―151348　電話／03（233）4570

五井先生のことば

運とその人の人格とは別のものなのである。人格は磨けば磨くほど光り輝き、立派になってくる。しかし、運というのは波があるから、上昇する時もあれば下降する時もある。上昇する時はいいが運が下向いてきた時、背後から強力に応援してもらうことが必要なのである。それには一番いいのは、信仰をもって、神様（守護霊守護神も含めて）にひき上げてもらうことである。そうすれば、運にいかに波の高低があろうと、神様がうまくのりきるようにしてくださるのである。

○

大乗ということは、男も女も、年寄りも子供も、誰でもが乗れ、そして彼岸につけるという乗り物のことである。しかも誰でもがやさしく乗れて、さぐれば限りなく奥深いという真理なのである。

消えてゆく姿で世界平和の祈りは、大乗の教えである。

○

〝世界人類が平和でありますように〟という一言を心の中で思い浮べた時には、その人は神さまとつながっている。

○

男は若いうちに苦労しておくものだ。

――高橋英雄「続・如是我聞」より――

祈りによる世界平和運動
〒603 京都市北区大宮釈迦谷十ノ四
京都道場
TEL〇七五―四九一―二九三七

昭和59年9月15日発行（第241号）　世界平和の祈り　昭和40年6月25日第三種郵便物認可

人間と真実の生き方

人間は本来、神の分霊であって、業生ではなく、つねに守護霊、守護神によって守られているものである。

この世のなかのすべての苦悩は、人間の過去世から現在にいたる誤てる想念が、その運命と現われて消えてゆく時に起る姿である。

いかなる苦悩といえど現われれば必ず消えるものであるから、消え去るのであるという強い信念と、今からよくなるのであるという善念を起し、どんな困難のなかにあっても、自分を赦し人を赦し、自分を愛し人を愛す、愛と真と赦しの言行をなしつづけてゆくとともに、守護霊、守護神への感謝の心をつねに想い、世界平和の祈りを祈りつづけてゆけば、個人も人類も真の救いを体得出来るものである。

宗教問答

五井昌久

問　世界平和の祈りの中にある、私たちの天命が完うされますように、ということはどういうことなのでしょうか。

答　世界平和の祈りの最大の特長はこの祈りの言葉を唱えようと心で想う瞬間に、もはやその人のところに、この祈りを私に提唱させた救世の大光明神霊団のみ働きかけが、行なわれているということなのであります。

ですから、この祈りは全部の言葉を形通りに唱えなくとも、すでに祈り言の効果があるわけなのですが、形通りに唱えた方が気持のよい人は形通りに唱える方がよいのです。

第二の特長は、子供にでも意味のわかる祈り言葉であることで、一度読み聞きすれば、その祈りの意味がすぐにでも心に沁みてくる、ということであります。

ただ問のように、私たちの天命が完うされますように、という祈り言葉が少しむずかしいぐらいなものです。

天命ということはどういうことかと申しますと、読んで字のごとく、天の命、すなわち神の命令神意ということで、神からきた命ということでもあります。私ども人間のすべては神の生命を分け与えられてこの世にきているのであり、神のみ心をその一人々々がはたしてゆくべきものなのであります。

神のみ心というのはどういうことかと申しますと、一つの生命が多くに分れて働き、しかも一つと同じような、なめらかな調和した交流となって、いろいろな色彩をもちながら大調和した姿を地上界に現わす、という、いわゆる地上天国という世界を顕現することにあるのです。

人間の一人一人はすべて、神のみ心の分れであり、み光の分れであって、それにはずれるものはないのです。従ってどのような人にも天命は必ずあるのであります。しかしながら、その人の一生でこの世の天命をはたしきってゆく人と果しきれずにあと何度もこの世に天命をはたしにくる人とがあるわけで、この差はその人の本心を蔽う業想念の層の深浅によるのです。

そこで世界平和の祈りの、私たちの天命が完うされますように、の祈りの意味がはっきりおわかりになってくると思います。私どもは、この世で、今生で、私たちの天命を完全にはたしてゆきたいと思うのです。自己に示された神意をはたしきってゆきたいのであります。これは、この世的な業想念的運命がはたされてゆくということと意味が違うのであります。

ところが、たいがいの人は、自己の天命が何であり、どのようなものであるかがわからないのです。はたして今やっている職業が天命なのか、自分の生活が天命にかなっているものなのかがはっきりわからないのであります。

そこにこそ、世界平和の祈りが生きてくるのであります。先程も申しましたように個々人が神意を完うすることが、天命を完うすることであるという理にはどなたも疑義をはさまれぬことと思います。

世界平和は神意であります。世界平和の祈りは神のみ心の現われであります。そこで、個々人が、自己の天命のいかなるものであるかがわからぬとしても、いずれも神のみ心、神意を現わすためにこの世に生活していることには間違いないのですから、神意であり、神のみ心の現われである、世界平和の祈りをすることそのものが、その人、その人の天命を完うしていることになるのであります。そして、その人の職業あるいは家庭を通しての働きは、日常そのままで天命に通ずるものとなってくるのであります。

この理が頭でわかってもわからなくても、素直に世界平和の祈りをしていれば、いつの間にか、なんの理窟もなしに、あなた方は、天命を完うしているのであり、神のみ心である、地上天国顕現の一つの役割をなしつつあるのだということになるのです。

ですから、気にそまぬ職業に鬱々としておられる人も、病床に呻吟しておられる人も、世界平和の祈りの中に自己の想念を投入していることだけで、自分がこの世に生れてきたことを意義づけていることになるのであります。

もっと云いかえますならば、自己の業想念を、神様のみ心、み光の中に常に投入していて、この世の業想念を少しでも消滅するために役立っている人は、すべて天命を完うしている人と云えるのです。

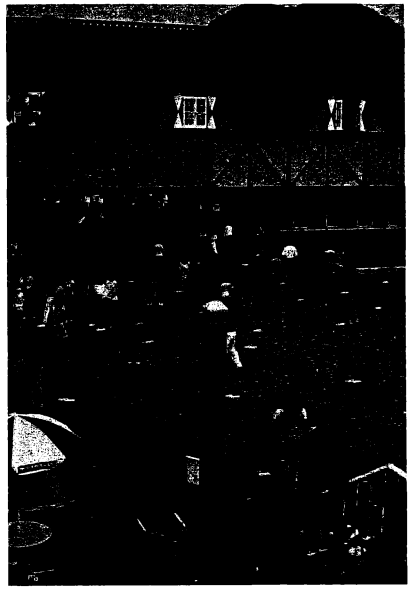
ここに従来の小乗的祈りを超えた、世界平和の祈りの大きな効果、大きな役割があるということになるのであります。

天照らす真の光地によぶと我が祈り
言は平和の祈り

であるのです。

――「宗教問答」より――

大自然の緑ゆたかな敷地に，自然動物公園や遊戯・スポーツ施設等を配した姫路セントラルパークに，世界平和の祈りの塔が３本建立されました。



なぜか安堵感を覚える言葉

（中外日報58年6月10日・民岡裕海氏〝平和と「心の病」〟より）

ところでこのごろよく街角で見かける一枚のパネルがある。それには「世界人類が平和でありますように」と書かれており、文章の表現のせいでもあるまいが、なぜか安堵感を覚えるのである。それは決して官僚的な文章でもなく、居丈高に構えた文章でもなく、表現が大へんさわやかなのである。新鮮なのである。

そこには市井の声なき声、小市民のささやかではあるが切実な願いがこめられているように思えてならない。平和を心から願う気持は男女を問わず、人種間、国境間、イデオロギーを超えて万民共通の願いではないだろうか。

宗教を求める人は多い。しかし、巷間の低級な宗教、非常識な宗教に嫌悪を感じて、宗教の道にとびこんでゆけぬ人もまた多い。その宗教に入ることによって自己の生活が不自由になったり、様々の強制を受けたりすることを恐れるからである。

宗教とは何か？「宗教とは、神仏（絶対者）と人間との関係を教え、明らかにする道である」と五井先生は説く。神仏は知慧、愛、生命の根源であり、人間は神仏の完全円満性を内に蔵した存在者である。宗教とはこのような人間の本質を開発してゆく道である。従って、「宗教に入って、愛の心が湧きあがらぬようならば、その人は真の宗教人ではなく、神に祈りながら安心立命の道に入ってゆかぬならば、その人の神観は誤りであり、その祈りは正しいものではない」という

正しい宗教と誤った宗教

正しい宗教とは、その道に入ることによって、愛が深まり、生命が生き生きとし、どんな困難をも乗りこえてゆく勇気があふれ、自己の存在意義を深く感じ、一切のとらわれから自由な心になり、一切のものに感謝でき、国家人類のために奉仕する人類愛の心を養うような宗教である。このような観点から正しい宗教と誤った宗教を区別したらよいだろう。

（N）

ことになる。

因縁を説いて、この会に入らなければ救われませんよ、と人を脅す宗教、何かにつけ金品を要求する宗教、それに入ったがために家庭や社会との調和をこわし、常識的な生き方ができなくなる宗教、信者集めを強制する宗教、何かにつけ神仏の罰やたたりを説いて人心を暗く萎縮させる宗教――これらはいずれも誤った宗教である。

世界平和を祈る集い（入場無料）
9月16日（日）
10月21日（日）｝午前10時～12時（9時開場）
明治神宮会館（東京都渋谷区・明治神宮境内、原宿又は代々木駅下車）

真実の幸福をもたらす月刊誌
白光　最新号贈呈中！
ハガキでお申込み下されば、最新号を無料でお送りします。
頒価　一部　一五〇円（〒45円）
一ケ年　二、三〇〇円（送料共）

行雲流水

或る夕方、ひときわサンダルをひきずる音を高くして歩く、一組の老夫婦に出会った。足をひきずっているのは、夫人らしい。体重を左側のご主人にあずけるようにして、ゆっくりと歩いている。ご主人もサンダルをはいていたが、夫人の体の重みに押されて、ともすると、道の左端によってゆく。それをさりげなく右手で道の中央に押しもどしながら、何事か話合っている。

よく見るとご主人は左手に買物かごをさげていた。これからご夫人の体の運動もかねての、お買物らしい。

夫婦そろって、健康で、年輪を重ねてゆくことが理想だが、妻が夫から独立し、夫が妻から独立してそれぞれわが道をゆく、というより、今、目の前をゆっくりと歩いてゆく二人のように、お互いに支えられ、助け合って生きてゆく人生のほうが、私にはよさそうに思える。夫婦として長い間つきあい、醸し出して来た人間としての、暖かさ、思いやりがただよっているように感じたからである。

年をとってからの仲むつまじさは、見ていてほのぼのとした〝いい感じ〟を与えてくれる。或る種の美しさがある。いがみ合い、憎しみ合いは醜悪である。

年輪を重ねるとともに、顔にも、体全体にも〝いい感じ〟があふれるようになりたいものである。

つねに日頃のその人の心の持ち方が、体の上に反映してくるのは明らかである。

醜悪、劣悪の想念というものを、きり捨て切りすて、自己の内面深くに沈潜したいものである。

そんなことどもを思いながら老夫婦を見送って、私は道を曲った。

柳散るや風に後れて二葉三葉　花蓑（高橋英雄）